

カタルーニャ独立派の次の一手

発表日：2018年5月15日(火)

～国外逃亡中の前州首相の院政～

第一生命経済研究所 経済調査部
主席エコノミスト 田中 理
03-5221-4527

◇ カタルーニャ州議会は昨年12月の州議会選後に不在が続いた新州首相に独立派の活動家を選出した。再選挙は回避され、スペイン政府による同州への直轄統治も解かれる。新州首相は中央政府との全面対立を回避すると考えるが、新たな州憲法の制定や国外逃亡中の前州首相を州大統領に指名する方針を示唆するなど、強硬姿勢も垣間見れる。中央政府との対立の火種は今後も燻り続けよう。

スペインのカタルーニャ州議会は14日、プチデモン前州首相が率いるジュンツ・パル・カタルーニャ（JuntsxCat）の所属議員で独立派の弁護士・編集者・活動家であるトラ氏を新たな州首相に選出した。同州議会は5日に国外逃亡中のプチデモン前州首相の州首相選出を可能にする法案を可決したが、スペインの司法当局がその効力を否定。再選挙が必要となる22日の期限が迫るなか、ジュンツ・パル・カタルーニャとジュンケラス前州副首相が率いるカタルーニャ共和主義左翼（ERC）の独立派2党は、国民投票の強行を巡って訴追対象となっていないトラ氏を新州首相に指名した。

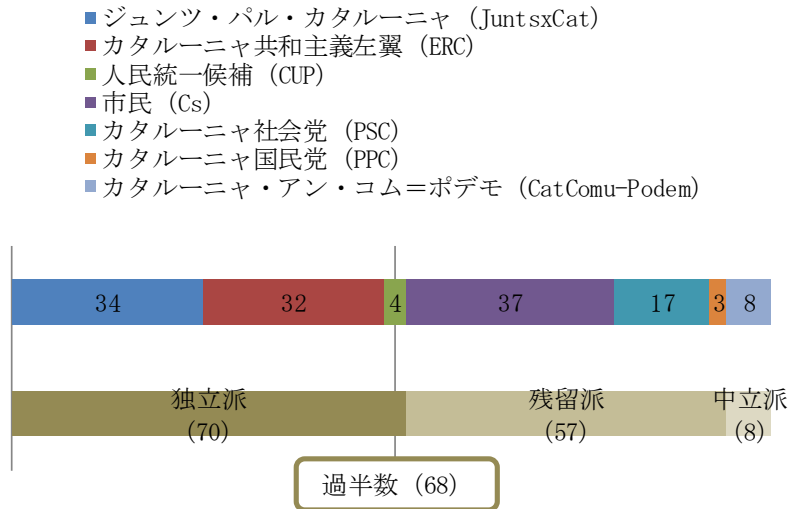
独立派2党では議会の過半数に届かない（図表1）。12日に行われた初回の選出投票では、前政権を支持した強硬独立派で反資本主義政党の人民統一候補（CUP）が不支持に回ったことで否決された。同州選挙法の規定に基づき、第2回投票では棄権票がカウントされない。CUPが投票棄権に回った14日の投票では、賛成多数で同氏の州首相就任が可決された。昨年12月の州議会選後に不在が続いてきた州首相を約5ヶ月振りに選出したことで、昨年10月の住民投票強硬で停止されていた同州の自治権復活（スペインの中央政府による直轄統治の終了）への道が拓かれた。これにより、カタルーニャ州の自治権停止に抗議し、ラホイ首相が率いる国民党（PP）政権への個別法案審議での閣外協力を取り止めてきたバスク人民党（PNV）が、政権協力を復活することが予想される。これまで停滞していた予算案を始めとした重要法案の議会審議も動き出す可能性が高まった。

ただ、宣誓就任したトラ新州首相は、国外逃亡中のプチデモン前州首相が後継者に指名した人物で、これまでカタルーニャの独立を強く求めてきた活動家。過去にはソーシャル・メディアでの過激な発言も目立つ。就任演説では、カタルーニャ共和国の樹立や新たな州憲法の制定、プチデモン前州首相を新設する州大統領に指名する方針を表明するなど、同州政府が引き続きスペインからの独立を求めていくことを示唆している。こうした方針は長期的な計画とみられ、中央政府との全面対立に発展する可能性は今のところ低い。とは言え、ラホイ首相は州政府が法律に違反する限り直轄統治を続けることを表明しており、今後マドリッドの中央政府との対立が再燃する火種も燻り続ける。

こうしたなか、中央政界ではラホイ首相が率いる政権与党・国民党への逆風が高まっている。同党所属議員の相次ぐ汚職疑惑に加えて、4月には有力地盤であるマドリッドの州首相である同党所属議員が不正学位取得の疑いで辞任に追い込まれた。カタルーニャ情勢への対応を巡っても国民党は支持を落としてお

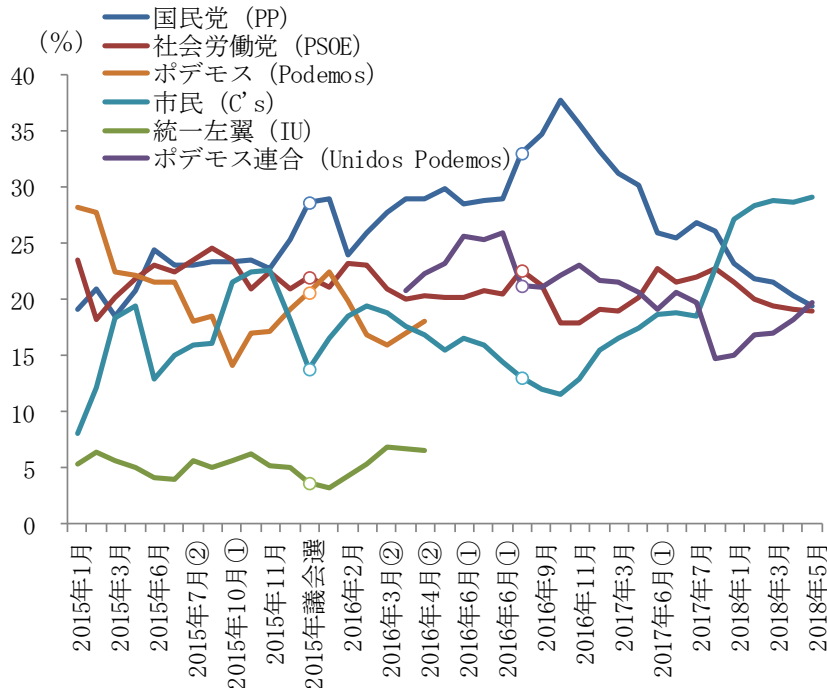
り、最近の世論調査では、カタルーニャへの強硬姿勢が目立つ新興リベラル政党・市民（C's）が国民党を完全に逆転している（図表2）。凋落が続く国民党の支持率は、中道左派の最大野党・社会労働党（PSOE）や新興左派政党のポデモス連合（Unidos Podemos）との逆転も視野に入ってきた。議会任期満了にはまだ2年余り残っているが、国民党の政権基盤は弱く、政局流動化のリスクも高まりつつある。

（図表1）カタルーニャ州議会の議席分布



出所：カタルーニャ州議会資料より第一生命経済研究所が作成

（図表2）スペインの主要政党別の支持率推移



注：○印は選挙結果、ポデモス連合はポデモスと統一左翼が合流

出所：Metroscopia資料より第一生命経済研究所が作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。